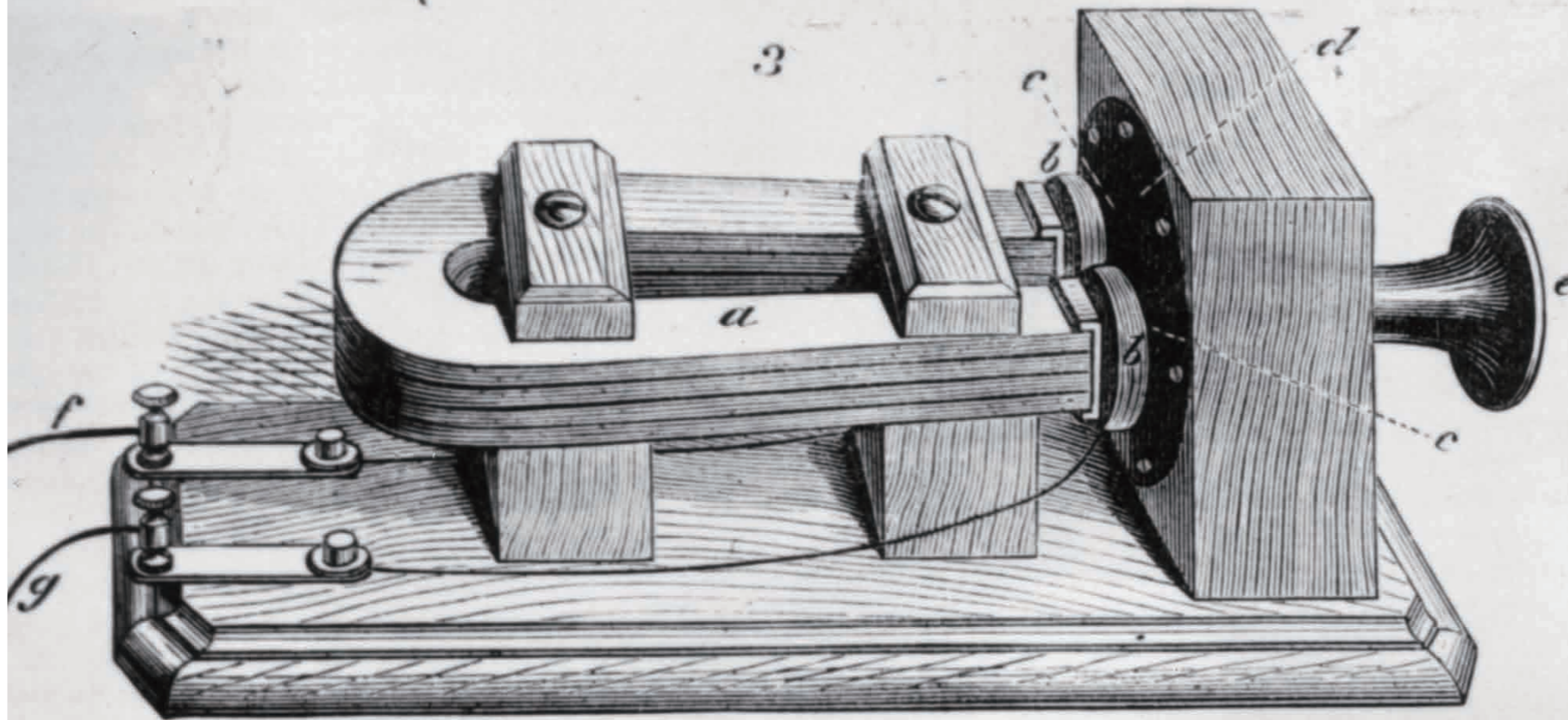


『インターネットは“人間”をやさしくするだろうか』



PIPED BITS

株式会社パイプドビット
東京都港区赤坂2丁目9番11号
03-5575-6601(代表)
<http://www.pi-pe.co.jp/>



佐谷宣昭 Nobuaki Satani

1972年生まれ。
九州大学工学部建築学科卒業。
2000年九州大学大学院人間環境学研究所博士課程修了、博士(人間環境学)。
翌月起業。株式会社パイプドビット社長CEO。明日の豊かな情報生活に貢献したいとの想いから、「情報資産の銀行」の必要性を説く。官公庁や都市銀行、小売業など1900余りの事業者に情報資産プラットフォーム「スパイラル(R)」を提供中。

この度の東北地方太平洋沖地震に被災された方々と、そのご家族、ご関係者の方々に、心からのお悔やみとお見舞いを申し上げます。

程なく、インターネットは世界中から心温まる応援メッセージを集め始めていた。電話もインターネットも繋がらない被災地に向けて。
Pray for Japan.

ここに寄せられたメッセージは非同期で、いつか読むべき人が目にする時を静かに待っている。

しかし、津波は都市をその構造ごと海にさらってしまった。

かつて、建築家のクリストファー・アレグザンダー氏は、都市は階層的に構成されるツリー構造ではなく、様々な要素が絡み合って形成されるセミ・ラチス構造であると説いた。永々と築き上げられたセミ・ラチス構造はレジリエント(弾力的)で、危機に対して複数の選択肢を提供し得るはずだった。

この度の経験は、電話は災害に弱く、インターネットは強い、という印象を残すこととなった。

インターネットはその名の通り、世界中のLAN(Local Area Network)を相互に繋ぎ合いながら構築されているため、自ずと複数の経路が形成され、冗長化されて、一部の渋滞や障害が全体に与える影響を抑えやすい。さらに、IPという通信規格網が開放されていることで、チャットのような同期サービスや、メールやツイッターのような非同期サービスが様々に開発され、普及してきた。不安定な通信環境においては、送れる時に送れて、受けられる時に受けられる非同期サービスが有効に機能する。

実はこの日の夕方から、事務所近くのホテルで半期に一度の社員総会を開催する予定だった。大阪から10名の社員が東京に向かっていく。急ぎ新幹線の車中にある彼らに社員総会の中止を伝え、大阪へ引き返すよう指示しなければならぬ。

電話は使えない。メールとツイッターを駆使しながら、就業中の社員、移動中の社員、休暇中の社員、全ての社員の無事を確認できたのは深夜0時を過ぎた頃だった。

14時46分。
ガクツと揺れたあと、どんどん揺れが増してきた。テーブルの下に潜り込み、手元のスマートフォンをチェックした。ニュースサイトは、普段の10倍大きな文字で「東北地方で震度7、大津波警報」と報じていた。

「情報」。非常時にこそ、その真価が問われる。2011年3月11日午後、東京の赤坂見附にある事務所1階の会議室。取引先の担当者を変え、3名で仕事の打ち合わせをしていた。